平成 23 年 8 月 28 日

東村山むさしの幼稚園
東村山むさしのこども園
園長・野澤貴春

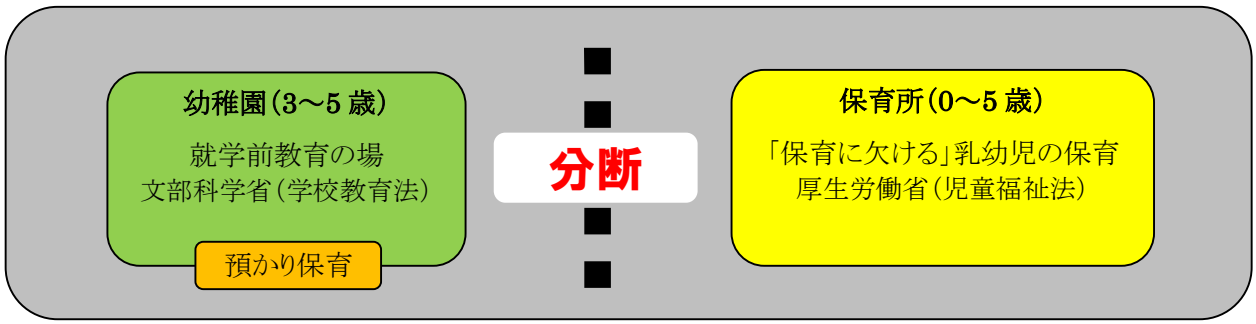
就学前保育・教育に関する新対策の提案と実現へ向けて

＊＊＊ 就労支援、家庭支援、そして、社会性、学力向上を総合的に目指して ＊＊＊

望まれる就学前教育施設と保育施設の相互乗り入れ

子どもの体力や集中力に見合った適切な教育時間による、就学前教育を行う幼稚園と、児童福祉法に基づき「保育に欠ける」乳幼児の保育を行う保育園は、本来行うべき役割が明確に異なります。

明確に異なるからこそ、歩み寄りを求められつつも、これまでの長い間、法制度や管轄をはじめ、あらゆる分野にて分断されてきたという背景があるのでしょう。



しかし、質と量を兼ね備えた就学前乳幼児対策として、
また、社会背景からも、互いに相互の役割が望まれる時代となっています。

現状や課題

- 「行ってきます」そして頑張り、「ただいま」と家庭へ。子どもには、長い一日の流れの上での緩急が必要。短時間だからこそ、気力・集中・緊張を適度に加味しながらの質の高い教育が行う事ができると考えます。しかしながら、幼稚園を希望する就労家庭も増え、幼児教育時間を超えての長時間保育が広まっています。
- ニーズに応じ、預かり保育を設けているが、様々な事情により必要に応えるための拡充に限りがある。
- 長時間保育に対応する調理施設等の整備。職員配置などの問題。
- より低年齢層の預かり保育の要望、また、園児兄姉の学童保育の要望も多々。
- 幼児期の現状より考慮した、就園前に遡っての親子教育の重要性。

- 保育所でも、小学校入学へ向けての就学前教育カリキュラムの導入が望まれている。
- 待機児解消に対し、駅前、マンションなど、子供の成長を促進する環境保持が困難。
- 年齢相応、就学に向けた教育プログラムを取り入れる必要がある。
- 駐車場や園庭確保の問題。集団教育への理解や協力を広める必要性もあるのでは。

- 幼稚園に入れたいが、仕事の関係で保育園を選択している。
- 兄姉弟妹が別施設に別れざるを得ず、日常および緊急時の、預け入れ、引き取りの問題がある。
- 量的な待機児解消だけで良いのか？

今や、「幼稚園だけ」「保育園だけ」でより良い環境を提供できる現状ではなく、
互いの長所を、相互に連携し有効活用する必要がある。

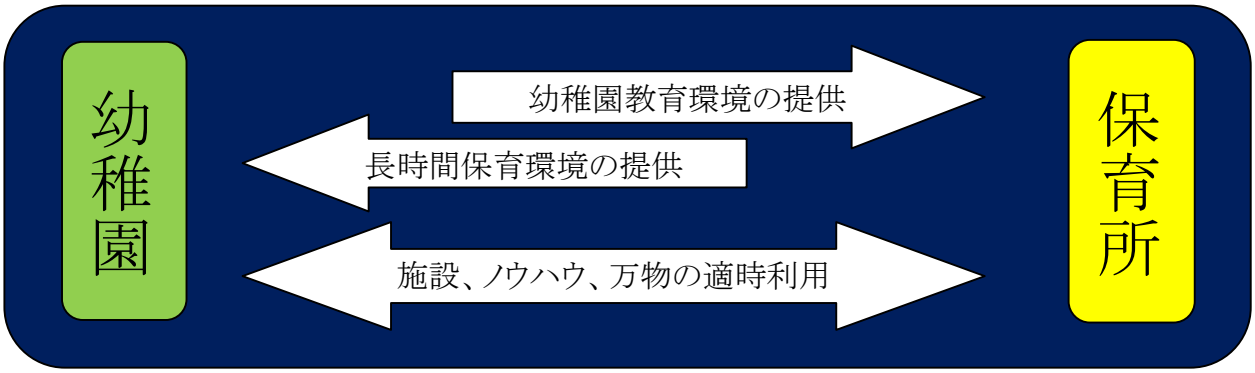
提案

幼保の連携（あくまで幼保連携であり幼保一体ではない）

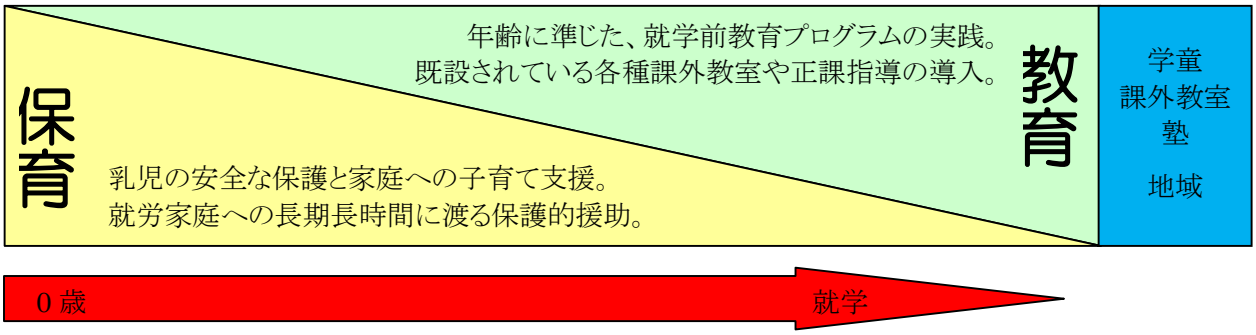
≪各々の明確な役割を大切に存続≫

幼保各々の概念を新たに見直す新システム。
様々な形態のある中での、幼保両面からの歩み寄り。

「幼児教育を取り入れた保育所と、長時間保育に適した環境を持つ幼稚園の連携。」
≪趣旨の異なる保育と教育。一体化はむしろすべきではなく、さらなる理想的な役割分担を目指します≫



- 長時間、子どもを、年齢に応じ、安全快適に受け入れられる量質伴った環境。
- 施設不足、待機児解消への量的協力。同時に教育や子育てに関するカリキュラムの導入や理念の普及。
- 年齢相応に与える、さらには個々の成長にも合わせた、保育・教育の連携。
- 既存の駐車スペースや園庭、あらゆる施設に渡る効率的な相互利用。充実した課外教室の提供。
- 就労家庭からの、時間延長・日数拡充など、要望の実現。（幼稚園希望だが保育園を選ばざるを得ない）
- 下の子（1～2 歳）は保育園、上の子（3～5 歳）は幼稚園、そのような現状の解消。
- 幼稚園教諭資格と保育士資格の併用者が多い中での、相互の相乗りによるノウハウの拡充。
- 不十分と不十分が相互の乗り合いをすることで、ハード＆ソフト両面での経営合理化、費用対効果の向上、両者とも拡充された環境の実現。質と量の拡充。
- 乳児～小学校低学年に及ぶ、子どもの統括的な保護と教育環境の実現。



子育て環境の背景には、社会背景があります。幼稚園としても就労支援は無視することはできず、
「保育所整備が急務であるならば、多大な教育の歴史とノウハウの基盤の上に、就学前教育機能を備えた保育所を整備し、様々なご家庭と子ども達に対する幼児教育の普及にも努めよう。」
それも一つの大きな動機でありました。また、既存の幼稚園児や保護者に対しても、必要とされる機会の増えつつある長時間保育の環境向上をも目指そうと思ったのです。

未だ就労支援を始めとする待機児問題は解決の糸口さえ見出すことが出来ません。施設整備は急務でもあり、しかしながら、量的解決だけでの対応では、最後は子どもにしわ寄せが強いられてしまいます。
ただし、ニーズは価値観により様々であり、保育に特化した施設から教育に特化した施設など多種多様な施設の保持も必要である中、ひとつの形として、地域を取り巻く総合施設として、地域との交流、世代を超えた人と人との交流、また、超少子化時代をも見据え、将来的には、地域やお年寄りへの施設の提供をも見越した、質量ともに兼ね備え、かつ、効率的な施設整備も有効であると考えます。

そして、ひとつの新たなモデル事業として、保育と教育の適度な関わり合いという区別もつけつつ、より良き形を模索し、市内のみならず、あらゆる乳幼児、そして、地域教育の発展、既存の施設の発展の鍵となるよう、今後の計画を進めたいと考えています。

保育部併設計画

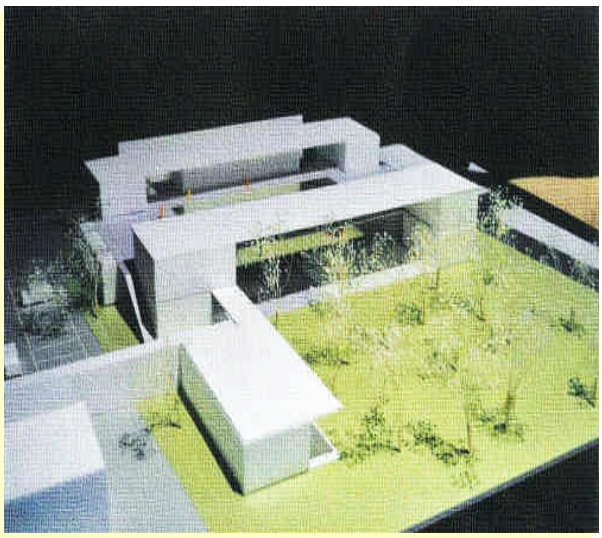
未だ解消されぬ待機児問題。先々の教育的機能としての拡大を念頭に準備してあった隣地の活用を提案。

就学前教育的機能を備えた保育部の併設

「幼児教育を取り入れた保育所と、長時間保育に適した環境を持つ幼稚園の連携」

… 短時間だからこそ集中！集約されるべき幼児教育の長時間化の防止＆保育所にも就学前教育を …

≪趣旨の異なる保育と教育。一体化はむしろすべきではなく、さらなる理想的な役割分担を目指します≫



● *まさに国策である「量質伴った総合施設」を即座に準備可能。*

「既存幼稚園のあらゆる施設を併用でき、就学前教育機能にも充実した保育所を設立。」また、「幼稚園希望者にも就労家庭が増加せざるを得ない中、そのようなご家庭と子ども達に対し、環境良き長時間保育機能を備えることが可能です。」

● *既存施設の有効利用*

駐車場、通園バス、遊具や園庭など、様々な既存設備を共有。施設維持に関する経費も節約。１歳から就学前までの成長年齢に応じた、より広い活動を提供。

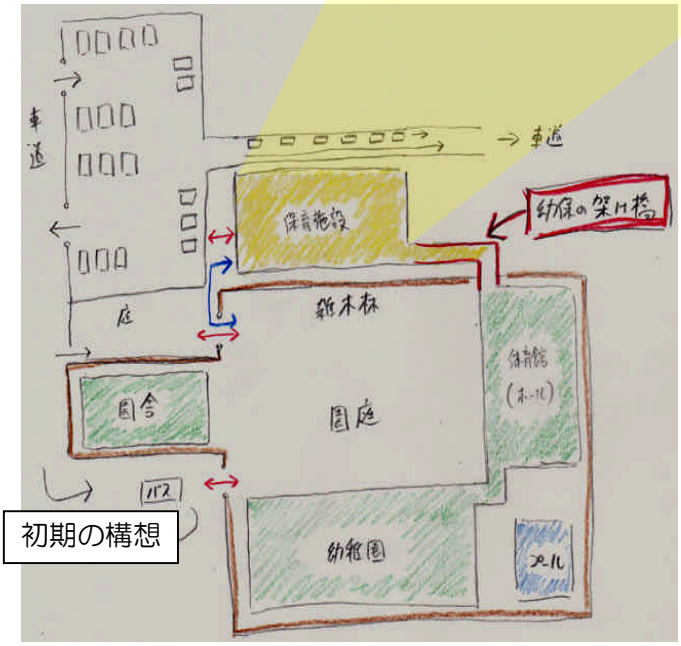
● *連携した子育て支援。*

子育て初心者～就学まで見据えた保育、そして、教育へと連携。
３歳入園時点の子どもも様々。「幼保が連携し、孤立しつつある家庭・母親・子どもへの子育て支援の手を。」

● *子育て支援に不可欠な学童機能*

基盤の大きい施設のさらなる活用。学童機能を備えることは、幼保の子育て支援に大きく関与する問題です。保育所や預かり保育で夕方まで保護されていた子ども達は、小学校へ入るとともに留守番を強いられる状況になるとの声も聞きます。卒園していった子どもたちが放課後遊びに来ています。セキュリティや遊具の難易度など安心できる遊び場が少ないとも。

たとえば…幼稚園には低学年程度までなら身体能力に適した遊具があります。水場もトイレも救急箱も。弟妹が園の預かり保育にいる小学生も。一か所にいれば保護者も安心であり引き取りなども一か所で済みます。そのまま園で行っている課外教室や塾へも参加できます。



初期の構想

時に、近隣の保育所の子ども達が園庭を借りに来て遊ぶ姿もあります。小規模保育所などへの施設の公開も広げたい。園には子どもに適した設備遊具があります。「週に何回」などと通う方法などとり就学に向けての教育的プログラムを導入することで、小学校就学への準備に向け、良き効果をもたらすことができるでしょう。また、ホールや園庭・遊具の貸し出しも可能です。様々な子ども達が関わることは、人間関係の成長を厚いものとすることにつながります。

● *体育館のホール化（案）*

多数の子ども、子育て家庭、また、近隣の方の需要に応じ、児童館の無い市内西部地区に公共的機能を備えるため、体育館のホール化も有効かと捉えています。大ホール、中ホール、コミュニティルーム、音楽、図書など総合的に集約することは、子ども達はもとより、それに関わる家庭や地域に対しても、合理的な施設利用の機会を増やすことが出来ると考えています。

● 時期的考察

待機児解消・就労支援は避けることのできない課題であります。各区市町村ごと緊急課題も異なり、財政状況も厳しい現状かと思われますが、安心こども基金などをはじめ、都や国の後押しも充実しているこの時期、各市町村において、そのバックアップを有効に生かし、充実かつ効率的な施設の構築は急務であると考えます。

（時期を誤れば、国や都の経済的支援もカットされ、区市町村はさらなる負担を強いられます。）

● 環境的考察

しかし、そこには、量的解消のみ優先された子どもの環境の悪化という事態も起こっています。あらゆる現状に対し、最善かつ有効に教育的基盤を生かしていただきたいと、教育的機能と保育機能、いわゆる、量と質の伴った保育園の設立を提案しました。

既存幼稚園の隣地を保育所用地として提供。保育機能と教育機能が併設されていることで、両機能のかけるところを相互に活用し、単独で保育所を準備するよりも量質ともに充実し、また、効率的な施設の運営が可能。地域における総合的な就学前教育・保育施設として、総合的に機能することができます。

併設予定図

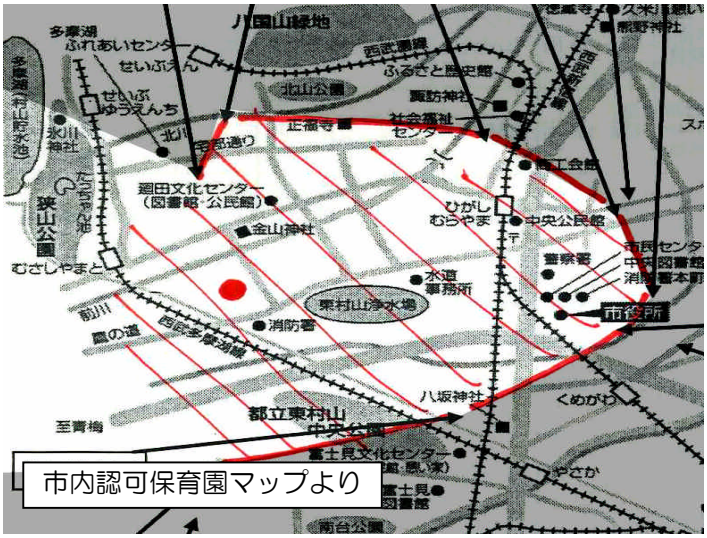
● 市内就学前教育保育現状に関する考察

また、「各保育所が、教育カリキュラムを導入しますか？」
「各幼稚園が、乳児受け入れや、長時間保育、病中病後保育に対応しますか？」

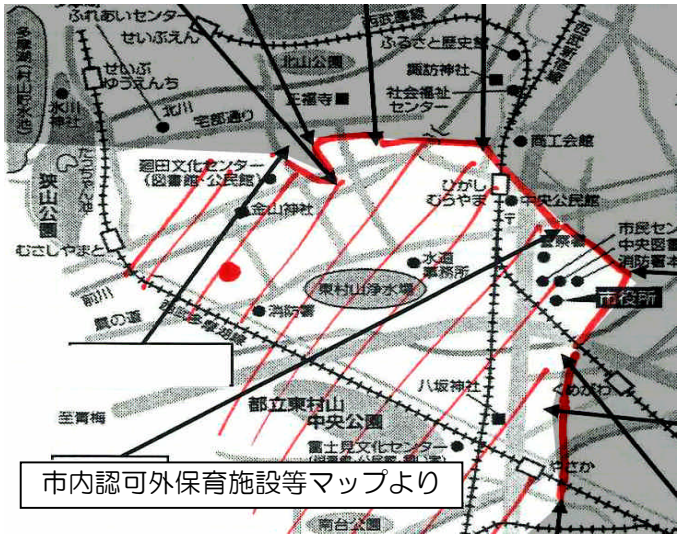
当初、一本化した際には、「認可保育所を持たない幼稚園」「教育機能を備えない保育所」は助成の対象外と打ち出されていました。社会状況に応じ、各所で小規模の保育施設も頑張っているこの時代。保育・教育ともに提供できる施設整備が望まれています。ハード・ソフトともに余裕のある幼稚園や大型保育所では可能かもしれませんが、総合施設化が困難な既存の施設であっても、近隣の幼稚園・保育園が連携を取ることにより、年齢に応じた活動量に応じた園庭など施設の利用、また、保育園児に対する就学前教育の場を、幼稚園が提供するといった連携も可能かと思います。

● 地域的考察

計画しようとしている場所は、東村山むさしの幼稚園の南側隣地、約 2,000 ㎡の空地。この地域は、下の地図をご覧いただいても明確な通り、市内における保育施設の空洞化地帯。まだまだ人口流入も続くと思われるベッドタウンでもあります。また、地方の例を見ると、子育て環境の向上により地域の活性化も可能となるかもしれません。また、能力のある子育て経験者の無理のない形での就業復帰の促進、また、施設教職員関係者に対しても、就労と子育ての両立支援となり得ます。

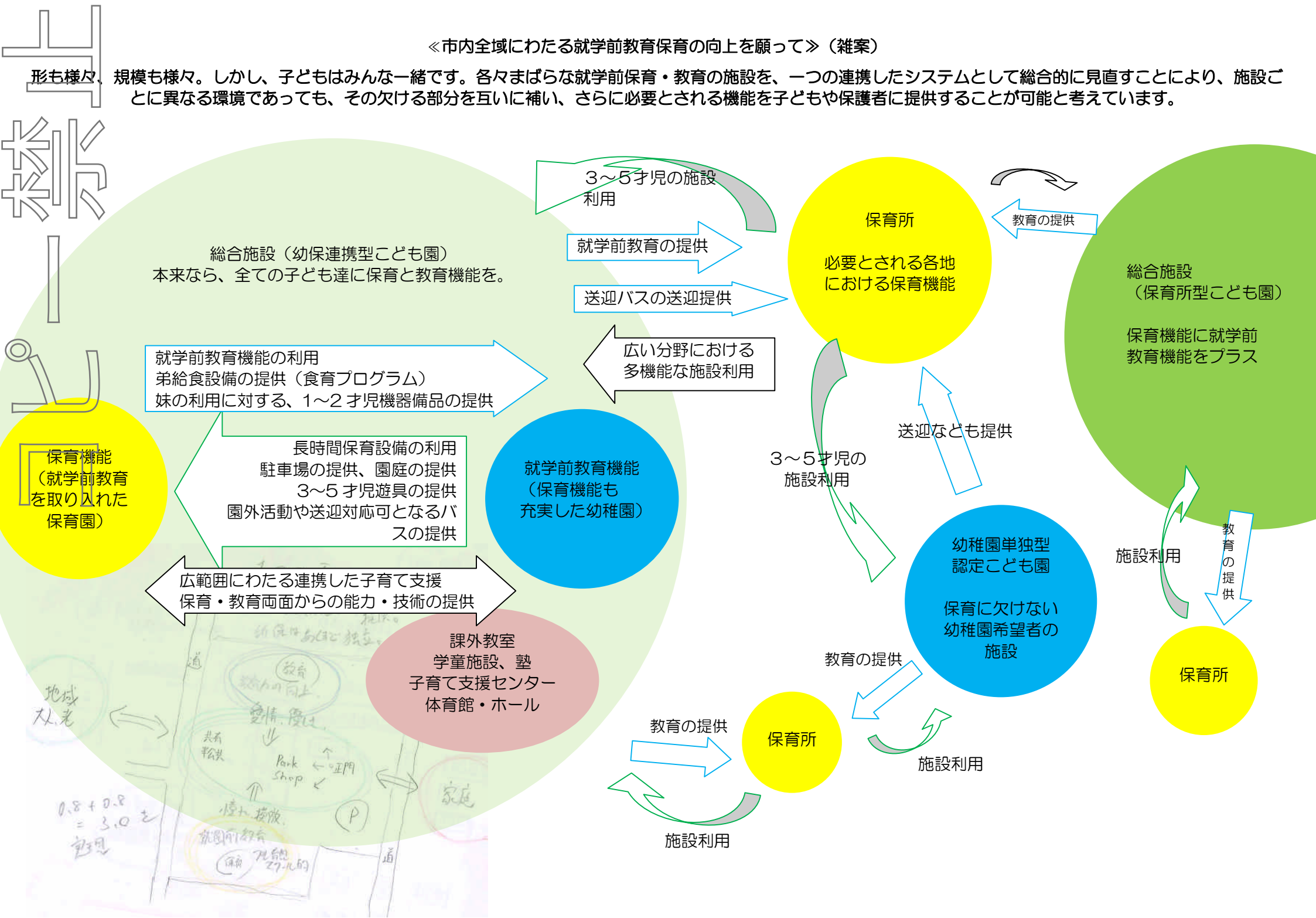


市内認可保育園マップより



市内認可外保育施設等マップより

制度への対応と併せ、現場で考える理想的な在り方をもとに、預かり保育部の改革と充実を経て認定こども園化を実現するなど、長年にわたり着々と計画を勧めてきた当園。所轄からの市内私立幼稚園に対する 1～2 歳児受け入れ、幼保連携型のこども園の要望を機に、今回、市内の待機児対策、また、国が進める量と質を伴った総合施設の整備に向けて手を挙げるに至りました。市の政策や計画にも大きく左右される事業。有効かつ早急な計画として、官民手を取り合い、子どものため、ご家庭のため、地域のため、また、小１プロブレムの解消、小学校の学力レベル向上、強いてはそれに続く市内全域にわたる学校の質や学力向上に向け、長き視線での施設整備計画と市内の就学前教育・保育システムの構築に向け、一つの足掛かりとして支持していただきたく思います。

≪市内全域にわたる就学前教育保育の向上を願って≫（雑案）

形も様々、規模も様々。しかし、子どもはみんな一緒です。各々まばらな就学前保育・教育の施設を、一つの連携したシステムとして総合的に見直すことにより、施設ごとに異なる環境であっても、その欠ける部分を互いに補い、さらに必要とされる機能を子どもや保護者に提供することが可能と考えています。